



パンとコーヒーの店
はじまりのうた
岐阜市岩崎 3-5-4
TEL.090-8457-6189



「生きるって素晴らしい」 を実感できる店を目指して

昨年の三月、岐阜市岩崎にとっても印象的な名前のカフェがオープンしました。その名も「はじまりのうた」。コーヒーと自家製パンが自慢のお店です。今回は、開業に至った経緯、店名に込めた想い、目指す夢など、店主の加藤千志さんにお伺いしました。

夫婦で描いてきた「夢」

店名を付けたのは、店主の加藤千志さん。五十三歳。開店以来、名の由来を聞かれることが多々あります。

「何かコトをはじめるときって、ワクワク・ドキドキしませんか。例えば私は歌が好きで、歌いはじめるときって、とても、楽しい“気持ち”になって、生きているという実感が湧きます」

そんな気持ちを全部お店の名前に詰め込みました。

開業への想いは、妻の律子さんと長年育んできたものでした。

「人が集う空間を作りたいって、『いつかカフェを開きたいね』と、妻と二人でずっと話してきました。当時、中学校で美術教師をしていましたので、定年退職したらと話していましたが、老後の体力や気

力、やりがいなどを考えた結果、早いうちに行動した方が良いのではと五十歳のときに決心しました。開業資金には退職金を充てました。二人で相談して、私たちの夢とこれからの人生のために使うことに決めました」

五十一歳の時、岐阜商工会議所の創業スクールに参加し、経理や税金のことなど一から勉強しました。コーヒー教室に通い始めたのが四十九歳の時。五十一歳で教師



います」

フードロス対策としての取り組みともなり、冷凍パンの需要は増え、バランスよく回り始めました。今後は企業の社食としての利用などにも広げていきたいと考えています。

地域に寄り添い続けたい

店の二階には、長年培った美術教師の経験を生かし、デッサン教室も開いています。

「子どもたちのために何かできないか」と思って始めたことですが、嬉しいことに、学生、社会人、大人と幅広く問い合わせをいただくようになりました」

地域の方々のための趣味の充実や、生涯学習の場としても役に立てるようで、やりがいも増してきました。

今後は更に、学校をはじめ、地域との交流を深めていけるような店にしていきたいと願っています。「地域で大切にされ、人が集いなくなる、気軽に『ちょっと寄れる』

の職を退き、五十二歳で開業しました。

「教師という安定した職を手放し、新しく事業を始めることを心配してくださる方もいらっしゃいましたが、目標に向かって様々な手段を用いて実践していく様は、教育と似ていると感じていました。教師を二十九年間勤めてきたので、自分が八十三歳になる三十年間は営業を続けたいです。今は、二人の夢が歩み始めたことにワクワクしています」

夫のコーヒー、妻のパン「二人三脚」で開業

店の大きな自慢は2つあります。一つ目はもちろん、千志さんが豆から厳選し、一杯一杯ハンドドリップで丁寧に淹れるコーヒー。使用する豆は自分で何度も試飲して様々な国の豆を独自に配合したオ

ようなお店でありたいです。少しでも多くの人にこの店を知ってもらい、何かあったときに、誰かの拠り所となれるお店の一つであり続けられたら幸せです」

そんな将来の姿を描きながら、「子ども110番」や「見守り隊」への登録をはじめ、様々な地域活動にも積極的に参加しています。

その活動の一つに、店の近くにある岐阜城北高校の生徒との交流があります。

「生徒さんたちが、模擬ではありませんが会社を作り、生徒自身が売り上げを予測し、仕入れ、販売するなどの一連の活動を行い、それを通して実際のビジネス展開を学ぶという取り組みです。私はコーヒーの淹れ方を教えたのですが、一日だけのイベントのために何カ月も前から懸命に学んでいました。若い生徒さんたちが各々、将来の進路に役立てることを目指している取り組みですので、今後も全力で応援したいと思っています」

他にも、小学校特別支援学級の買い物体験、中学校職場体験、中学校での働く人と語る会の講師など、地域の学校行事には積極的に連携しています。

「これまでは、教育面から地域・企業の方々と連携して子ども達を育成してきました。今は企業という立場から、地域、学校と連携し、子どもたちの発達、未来に貢献していかなければならないと思って



パンとコーヒーの店 はじまりのうた
店主 加藤 千志さん(右) 律子さん(左)

リジナルブレンドです。そしてもう一つが「自家製パン」。こんもりと山積みされた種類豊富な焼きたてパンの香りが、いつも店いっぱいに広がっています。

そんな「パン」を焼くのは、奥様の律子さん。夫婦でいつ開業してもいいようにと、長年パン屋さんで修業を重ねて来ました。律子さんも美術に長け、店内のイラストやチラシ、この店のシンボルキャラクターであるカエルのデザインも手掛けました。

「うちは、ただのコーヒー店でも、ただのパン屋さんでもありません。コーヒーとパンが楽しめるお店なのです」

開業にあたり、千志さんは「J・C・Q・A コーヒーインストラクター二級」を取得。専門的な知識や技能をしっかりと身に付けました。

います」

また、週末にはお店で、コーヒーの淹れ方教室や、マイクやアンプを使用しない演奏会、レコードを聴く会など、小さなイベントを企画・運営しています。そこには、千志さん夫妻にとつて、新たな「はじまり」となったこの店が、誰かの心が少し安らぐ、誰かと誰かが知り合う、また会おうねと会話ができる、そんな誰かにとつて、少しの「はじまり」の場になればと思つて企画しました。

「例えば、日曜日の夜などは、明日からの仕事や学校のことを想うと『ちょっと憂鬱』つてことがあると思いますが、そんな時、ワクワク・ドキドキ“できた”たら、楽しくなって、生きる素晴らしさを感じて、また月曜日からちよつと頑張ろうかなと思えますよね」

二人の笑顔はこれからずっと穏やかに迎えてくれるでしょう。

